

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-189
研究課題名：大腸癌肝転移に対する腹腔鏡と開腹肝切除の手術侵襲と再発・予後の比較 (propensity matching を用いた検討)
研究期間 西暦 2014年7月(倫理委員会承認後)～2017年3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料(対象臓器名) <input type="checkbox"/> 生検材料(対象臓器名) <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他(患者の臨床データ)
上記材料の採取期間 西暦 2005年1月～2010年12月
意義、目的：腹腔鏡肝切除は2010年に保険収載され、現在広く普及しつつある。一方大腸癌肝転移に対する肝切除は、その一部は腹腔鏡下に行われている。大腸癌肝転移に対する腹腔鏡と開腹による肝切除の retrospective な比較研究では、術中出血量や在院日数は腹腔鏡肝切除で低値であり、手術時間や無再発生存率・全生存率には差がないと報告されている。しかし両群における背景因子に偏りがあることが問題点である。加えて大腸癌肝転移に対する腹腔鏡肝切除と開腹肝切除を比較した randomized control study (RCT) やその meta-analysis は報告されておらず、明らかな結論は出ていないのが現状である。そのため、propensity score (PS) matching で両群の術前の背景因子を一致させることで、バイアスは減少させ、RCT に準じた研究を行う。
方法：肝胆膵外科学会大腸癌肝転移プロジェクトチームにおいて、大腸癌肝転移に対する腹腔鏡・開腹肝切除症例の retrospective なデータを、2005年1月から2010年12月までに初回肝切除を行った大腸癌肝転移症例を対象として集積する。個別症例における臨床データなどを収集後、各症例に関する propensity score を算出し、腹腔鏡肝切除と開腹肝切除症例の matching を行う。得られたデータを用いて術中出血量、手術時間、術後合併症などの解析を行うことで、よりバイアスが少ないエビデンス・レベルの高い結果を得ることを目指す。
問い合わせ・苦情等の窓口 980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院 肝胆膵外科 講師 森川孝則 022-717-7205